

ボリビアの例を念頭に、住民の中での分断が見られるのか、また運動の主体となる住民は自らを先住民として認識しているのか、といった点についての疑問を提示した。

そのほか、参加者からも、北米の先住民との比較、「先住民」と「先住(民)性」との違い、住民が自らの先住性を示すための概念、土地所有の観念、戦前の人間関係や所有関係との関連など、さまざまな質問が出された。特に北米の先住民との比較対照について多くの議論が展開されたのは、知花氏の学問的な背景として北米で展開されていた先住民政治の理

論があったためであろう。ここでの議論から浮かび上がった問題の一つは、「先住(民)性」という訳語があてられた indigeneity をどのように訳すのか、ということであった。知花氏によれば、読谷の住民は自らを「先住民」とは呼ばず、また調査にあたって「先住民」という語の使用は避けているという。北米の先住民やアイヌと異なり、「民族」というカテゴリでとらえることのできない「先住性」をどのように説明していくべきか、アジア太平洋地域の植民地支配を考えていく上でさらなる議論が求められていると言えよう。

(客員研究員 秀明大学非常勤講師)

## 2020年度 アジア研究センター活動報告 2020年4月～2020年9月

### 共同研究グループ主催によるZOOM公開研究会

#### ●研究グループ：「植民地国家と近代性」

◆日 時：2020年8月20日(木)

テーマ：「軍用地と土地所有権をめぐるポリティクス  
—先住民政治的観点からの考察—」

報告者：知花 愛実(神奈川大学経営学部助教)

出張者：松本 和也(所員 神奈川大学国際日本学部教授)

出張先：宮城県美術館

日 程：2020年9月27日(日)～2020年9月28日(月)  
宮城県

目 的：近代文学・美術関連館料の閲覧・調査

### 共同研究グループによる出張

#### ●研究グループ：「アジア圏における文化の生成・受容・変容」

##### 《国内》

出張者：松本 和也(所員 神奈川大学国際日本学部教授)

出張先：石坂洋次郎文学記念館

日 程：2020年8月18日(火)～2020年8月19日(水)  
秋田県

目 的：石坂洋次郎関連館料の閲覧・調査

出張者：中林 広一(所員 神奈川大学国際日本学部准教授)

出張先：埼玉県立久喜図書館

日 程：2020年9月2日(水) 埼玉県

目 的：食文化研究に関する資料調査

出張者：中林 広一(所員 神奈川大学国際日本学部准教授)

出張先：味の素の文化センター

日 程：2020年9月16日(水) 神奈川県

目 的：食文化研究に関する資料調査